

親子の関係のはじまりを支援するために

—赤ちゃんからのサインを受け止めるということ—

---

名古屋大学心の発達支援研究実践センター

教授 永田 雅子



# “いのち”の誕生の時期—周産期

周産期：妊娠後期から新生児早期のお産にまつわる一括した概念

親側：妊娠(後半)・出産・そして育児のスタート

自分とは違う存在が胎内に宿り、育ち、

出産という体験を通して出会う時期

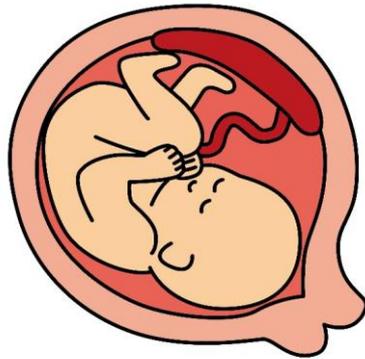
子ども側：胎児から新生児へ

羊水や胎盤など何重にも守られた世界から

外界への環境への適応の時期

親と子が出会い、家族としての初めの一步を踏み出す時期

Fantastic baby  
Imaginary baby



胎動  
心拍



血流を通して……  
不安や緊張



この子は  
こんな子かも…

声を掛けたら  
動いてくれた

周囲からのサインを  
五感で感じ取り  
身体でサインを  
送っています

声の強さ  
抑揚・トーン  
心音  
食べたものの味

胎動などを  
意図あるものとして  
読み取り、声をかけ、  
やりとりを行っています

出産により“現実の赤ちゃん”(Real Baby)  
と出会うことで  
急速に親子の関係は深まっていきます

赤ちゃんが生きようとする姿  
反応をしようとする姿  
その温かさ・匂い・・・

五感を使って赤ちゃんを感じ、  
赤ちゃんの存在に引き出されるようにして  
目の前にいる唯一の“わが子”としての  
赤ちゃんとの関係を築いていきます。

# 生れたばかりの赤ちゃんの“こころ”を 受け止めるということ

～ 生後45分ごろの赤ちゃんとお父さんの様子～

---

# 生まれたばかりの赤ちゃんは どんな力をもっている

---

視覚

聴覚

触覚

臭覚

やり取りの力……

# 赤ちゃんの能力（視覚）

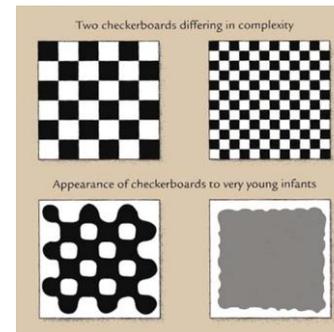
---

新生児は視覚的好みを示す  
(Fantz,R,1963)

生まれて10分の新生児が音の  
する方へ向く(M,Wertheimer)

生後42分の乳児でも大人で観  
察できる表情を模倣  
(Meltzoff,A,Moore,K, 1977)

newborn behavioral state  
( Wolf,PH,1966)



# 赤ちゃんの能力(聴覚)

---

誕生時, 新生児は、音の方を向き音源を見つけることができる

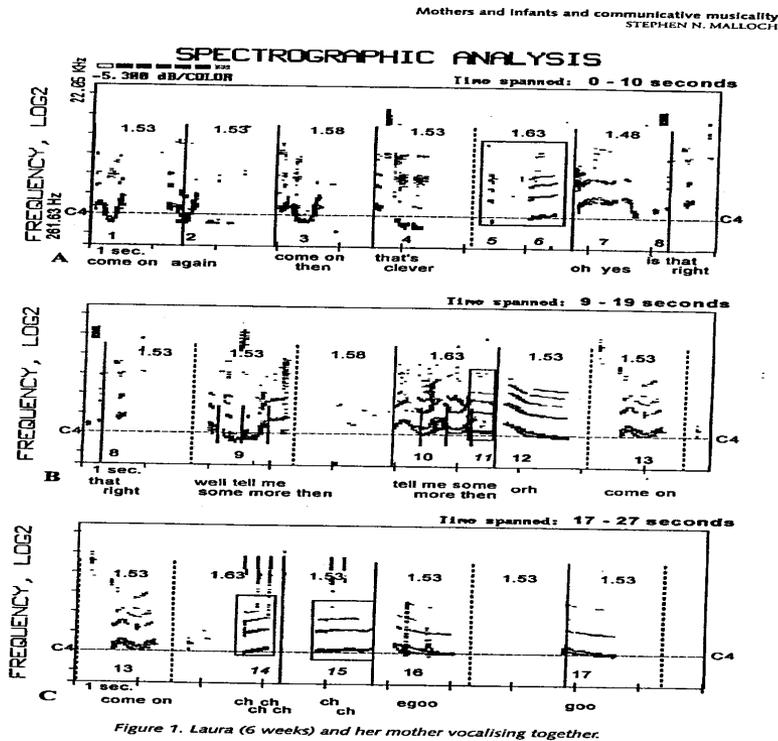
一人の人の声を違う人の声と全体のパターンやリズムやピッチの違いから区別できる (Nazzi, et al, 1998).

新生児の聴覚はとても微調整されており、音楽のビートが飛んだことを認識できるばかりでなく、重要なことに、おそらく、すでに母親の声の音を認識できている (Fifer and Moon, 1994).

# 赤ちゃんの能力(やり取りの力)

Communicative Musicality.  
(Malloch, et al. 1999)

Imitation in babies  
(Nagy, E et al, 2014)



人間の赤ちゃん = 生理的早産

周りのケアを引き出すための能力を持って  
生まれてきている

新生児期の視力 0.01程度

授乳時の母と赤ちゃんの顔の距離 追視も可能

新生児期の聴力

音の変化と持続時間、高いトーン・リズムを  
聴き分ける

お互いの波長を合わせた相互のやりとりが  
出生後早期(妊娠中)から行われている

# 生まれたばかりの赤ちゃんと 周囲との関わりの中でおこっていること

大人は無意識に赤ちゃんの声の調子に合わせた声を出して、

さらに赤ちゃんの表現を真似る

赤ちゃんは勝手に反応しているのではなくて、

相手の反応をみながら反応をしている

*出生後早期から親子のやり取りが生じている*

個性的な赤ちゃんの存在

大人は、赤ちゃんにまるで感情があるかのように読み取っている  
身体的には一人前として扱っていないのに、  
赤ちゃんの表情やしぐさ一つ一つを勝手に解釈

Ex. おしめが気持ち悪かったんだよね。  
おなかがすいて怒っていたのね



この不快な感じはおなかがすいているということなんだ  
子のいらいらした感じは怒っているというんだ



つまり自分の状態像を相手の読み取りで理解

赤ちゃんの情緒的発達の基盤

同じ反応であっても人によってよみとりかたは異なる  
意味のない反応であってもそこに意図をよみとる

手を伸ばす …… 私に抱っこしてほしいのかしら  
VS 私を追い払おうとしているのかしら



赤ちゃんの反応が未分化で、サインの出し方も未熟なために  
赤ちゃんの“こころ”をどう読み取るかは人によって  
異なるものになっていく

# 何も言わない、何を伝えたいかわかりにくい

…赤ちゃんと一緒にいることは不安を触発しやすい

子どもの反応や動きをどう読み取るかは大人側によって異なる  
赤ちゃんが何を伝えたいのかどうしてほしいのかわかりにくいために  
かかわる大人自身の表象が反映されやすい

⇒ 世代間伝達

妊娠・出産のプロセス

周囲との関係性 など未解決の葛藤が影響を及ぼす



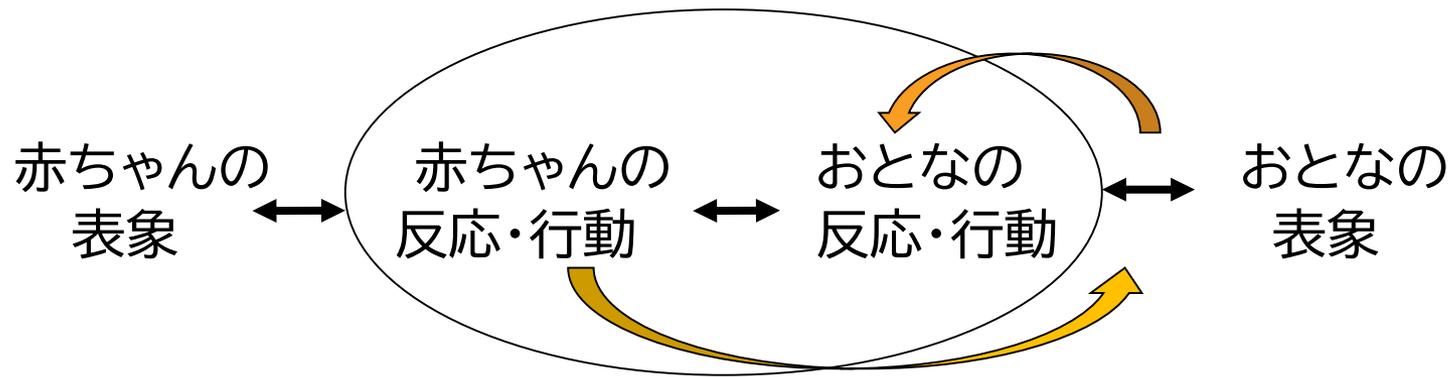
赤ちゃんが泣き止まない



おなかがすいたのかしら

VS

私が十分にできないことを責められているのでは



(Stern, 1995 を改変)

赤ちゃんが未熟で反応が未分化であればあるほど

その読み取りには、かかわる人自身の表象が影響をする

赤ちゃんもかかわってくれる人の反応や行動に影響を受けている

赤ちゃんからのサイン(メッセージ)を知ること

=自分の思いから離れてreal babyと出会うことを助ける

誰かと赤ちゃんの言葉(こころ)を一緒にとらえていくこと

それ自体が読み取りの修正を支えていくことになる

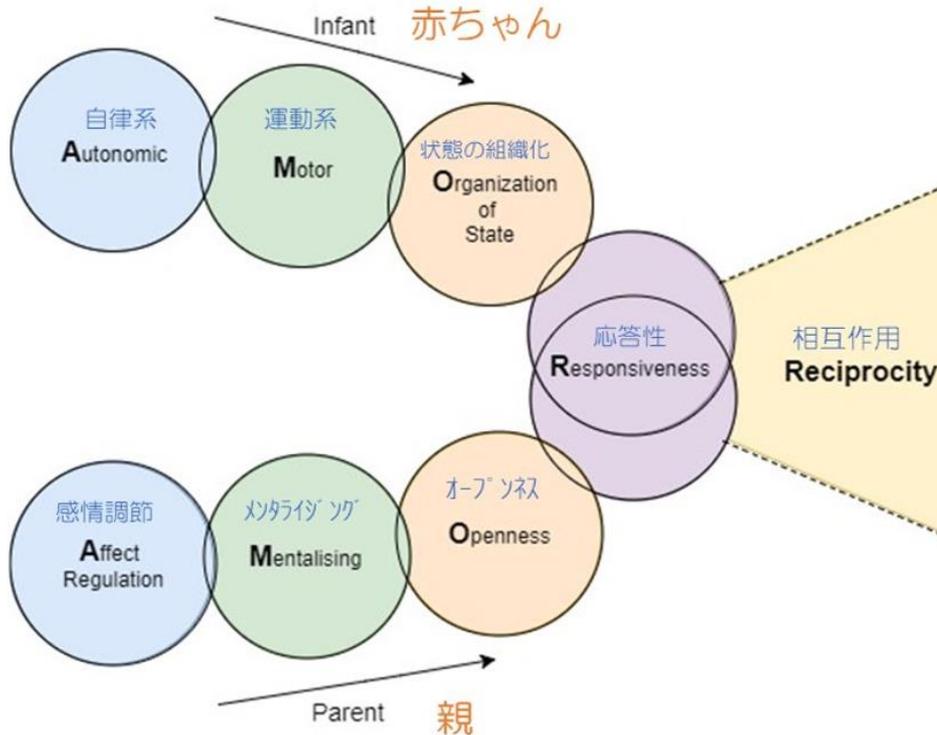


個性的な唯一の存在である

赤ちゃんと出会うということ

**目の前の赤ちゃん (Real Baby) との出会いを支えていく必要性**

未熟性などが影響



抑うつ的などが影響

(NBO ; Nugent,2007)

**A**utonomic 自立系

**M**otor 運動系

**O**rganization of state  
状態の組織化

**R**esponsiveness 情緒的応答性



**A**ffect Regulation 感情的調整

**M**entalization メンタライゼーション

**O**penness to the “real baby”  
「現実の赤ちゃん」への開放性

**R**esponsiveness 情緒的応答性

# NICUでわが子と出会うということ

NICUでは、“いのち”がむき出しの  
非日常的な環境の中で出会う

赤ちゃんに出会うまでに  
様々な傷つきを抱えていることも少なくない

未熟で反応の乏しい  
赤ちゃんを目の前にして  
これまでの未解決の葛藤が  
触発されてしまうこともある

# NICUに入院となってくる赤ちゃん

## 自律系の未熟さ

呼吸・消化・体温調整

→ 自分の生命のバランスを取ることに精一杯

## 運動系の未熟さ

反射が誘発されやすく、自分の動きをコントロールしにくい

→ 自分の体がまとまっているという感覚が持ちにくい

## 状態系の未熟さ

安定した睡眠や敏活な状態が維持できにくい

→ 周囲の環境の刺激から自分を守りにくい

相互作用の一方の担い手として機能しにくい

➡ 子どもの姿が親の不安を触発する

赤ちゃんは行動や反応で  
様々なメッセージを  
私たちに送ってくれています

赤ちゃんのケアが  
“doing” できること

赤ちゃんと一緒に  
“being” できること

赤ちゃんの観察  
…“出会い”を支える

家族と子どもの強みをいかに引き出すのか



**NBO**

(Newborn behavioral Observations System)

が目指している理念

## NBOの基本的な考え方

あるがままの姿を尊重する

家族と目の前の赤ちゃんの姿をそのまま共有する

家族に主体的に参加をしてもらうことで

家族が読み取る赤ちゃんのメッセージから支援を始める

NBOとは？

---

# NBAS (Brazelton, 1973)

早産児に焦点

## APIB

Assessment of Premature  
Infant's Behavior; Als, 1982

## NIDCAP

The Newborn Individualized  
Developmental Care and  
Assessment Program; Als, 2008

## NNNS

The NeoNatal Neurobehavioral  
Scale

関係性支援に焦点

## CLNBAS

Clinical NBAS;  
Nugent, et al, 1985

## NBO

Newborn behavioral  
Observations system;  
Nugent, et al, 2007

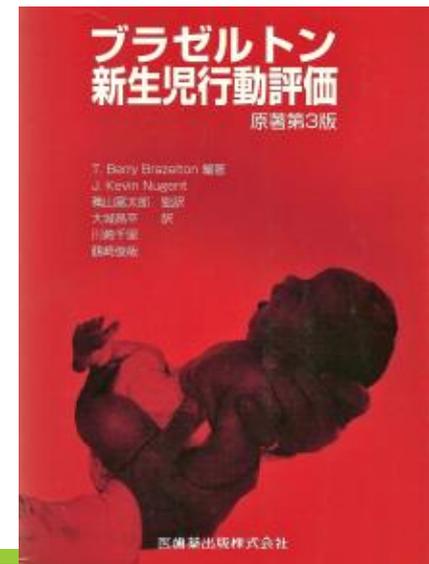
# Neonatal Behavior Assessment Scale (NBAS) (T.B.Brazelton,1998)

赤ちゃんの神経行動能力を評価する検査法  
自律神経系(ストレス反応など)、  
運動系、状態(State)系、社会-相互作用系  
の4つの次元でとらえるもの



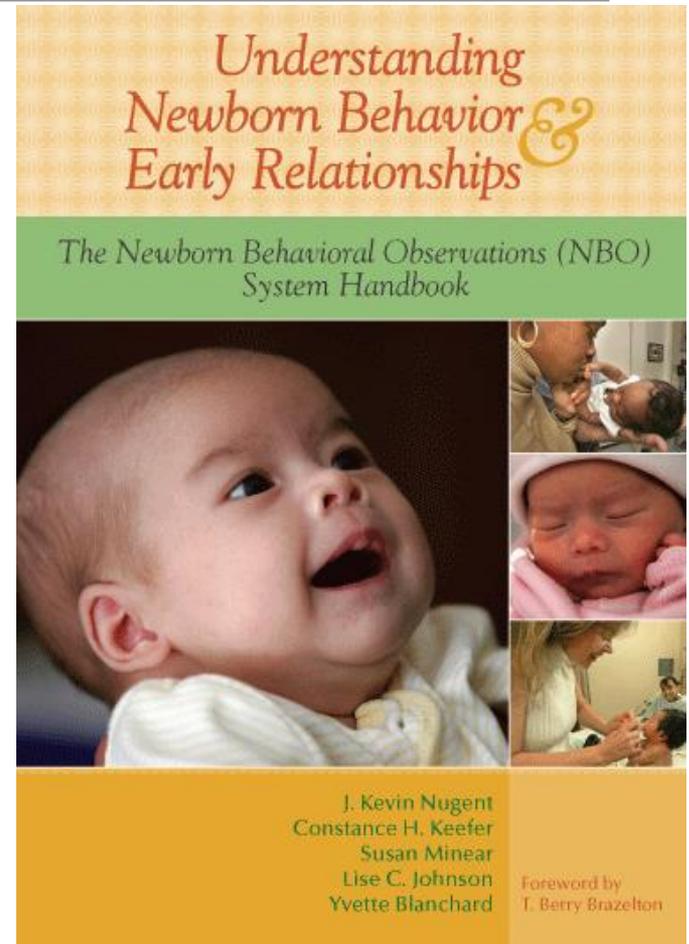
対象 在胎37週頃～48週頃  
(生後2か月まで)

所要時間 15分～20分の検査



# NBO(Newborn Behavior Observations)

- NBAS（ブラゼルトン新生児行動評価）を基に開発
- 対象は生後0～3か月
- 焦点を評価から関係性構築へとシフト
- 家族が児の力や個性を感じやすく、肯定的な家族関係が促進されるような項目のみに短縮
- 赤ちゃんの反応を見ながら赤ちゃんの個性や特徴を観察する



# NBOの項目

---

全部で18項目

- ①睡眠中の外的な光刺激,  
音刺激に対して馴化する能力 2項目
- ②運動機能, 活動性の質 3項目
- ③状態の組織化と調整(泣きやなだめなど) 3項目
- ④自律系ストレス反応 1項目
- ⑤視覚的, 聴覚的, そして社会相互能力 5項目
- ⑥反射 4項目

# NBOの導入

---

家族と赤ちゃんの様子を一緒に観察し、赤ちゃんの様子を教えてもらいながら、赤ちゃんに対して抱いている赤ちゃんのイメージを伺っていく

項目実施は10～15分弱

家族同席が基本 実施してもらえる項目は家族が実施

家族が赤ちゃんの姿に集中しやすいような環境設定

少し薄暗く静かな場所。周囲からの刺激がすくない

# NBOの実施①

---

眠っていれば

寝かせたまま

あるいはお母さんの膝の上で……

漸減反応のチェック

外界からの刺激に影響をされず

睡眠を維持できるかどうか

# NBOの実施②

---

反射などをみながら

刺激に対する反応性

ストレス反応

状態変化の迅速性

自己鎮静……

をチェックしながら

覚醒水準を上げていきます

# NBOの実施③

---

人の顔、声、顔と声

赤いガラガラやボール

を使って、周囲にどれだけ

関心をむけることができるか？

人のかかわりによってどのくらい

落ち着くことができるのかを

見ていきます

# NBOの効果

---

親になりたての時期

支援を差し伸べることで自体が侵襲的なケアになることも

= 親として十分ではないから支援がはいるのでは？

赤ちゃんに焦点を当てる→親としての評価に直結しない

家族の気づきを支える →親としての自信を支える

赤ちゃんのことを”知る“という

共通の目標で出会える

# NBOの活用ーNICUで

---

未熟性の強いお子さん

今現在の強み・弱みをつかむことができる

何ができて、できないのか

どうすると落ち着きやすかったり

反応を引き出しやすいのか？

赤ちゃんのことを”知る“ことで

**ケアを調整できる**

## NICU入院中のお子さん

発達のリスクも高く個別性のケアを提供する必要  
家族も急性期の印象が強く、赤ちゃんの強みに着目  
できにくいためケアに消極的になってしまう

赤ちゃん自身と家族の相互作用の強化にも有用

「どんな赤ちゃんかを一緒にみせてもらう」  
比較的侵襲度の低い介入方法



©DESIGNALIKIE

先生や私、夫の声にも反応し、自ら首を動かしてみるなど、いろいろなものに興味を示し、見てみよう、なんだろうと反応している姿を見て、驚いたのと同時に、小さく生まれたけど、成長しているんだと嬉しい気持ちになりました。私たちが声をかけると嬉しそうな安心しているような表情を見せたのが印象的でした。

(GA31.1 BW1,323g  
日齢37/修正在胎37週)

最初は“どんな反応をするんだろう”とか、“いつもすぐ寝るから本当に反応するのかな？”とっていました。でも目を開けてキョロキョロしたり、不思議そうな表情をしたり、初めてみる表情や動きがあって面白かったです。また先生の説明がとても丁寧で、詳しくて“そういうことなのか”と理解が深まりました。”一緒に成長を見ていこうね“という姿勢が何より嬉しかったし、励みになりました。(GA23.3 BW687g 日齢210 小腸閉鎖)

毎日触れ合って、こういうのが嫌かなと思っていたことが、第三者と確認できて安心した。音と色が合わせるとさらに興味がわくようで、目で追っている姿は初めて見た。こんなおもちゃがすきなのかなと、おもちゃを選びやすくなった。

(重症仮死。低酸素虚血症脳症。低体温療法実施。CP疑い。日齢26)

# NBO の効果—親への影響

---

NBO に参加した母親のうつの発症が5倍低い(Nugent,2007)

ポジティブな親子関係を促進する (Sanders and Buckner, 2006)

NBO は、聴覚を失った赤ちゃんとのポジティブな親子関係を促進する (Hartblay, 2010)

NBO は、父親参加の促進効果を与える (Saito, 2014)

NBO は、赤ちゃんの要求を理解し適切に反応する親の安定的能力に貢献し、親の相互交流の能力にポジティブな影響を与える (McManus and Nugent, 2011)

# NBO の効果—支援者との関係

---

- 9か月のフォローアップ研究(McQuiston et al. (2006))では、NBO のトレーニングを受けた小児科の研修医は、親とよりポジティブな交流が持てたと報告した
- Sanders と Buckner (2006) は、NBO が看護師にとってポジティブな親子関係の促進に役立ったことを示した
- 早期介入サービス提供と統合されたNBOは、ハイリスク新生児と関わるサービス提供者の高い自信と関連があった (McManus & Nugent, 2012).

# NBO の効果

(Fishman et al. 2006)

---

NBO は、親の赤ちゃんの理解 を促進し、赤ちゃんの行動の  
よき観察者となることを手助けする

NBO は、母親の自信を強くする

臨床家がNBOを学ぶと、臨床でも役立つと感じている

NBO のトレーニングを受けた小児の専門家は、  
患者と“つながる”ことを助けたと報告した

アメリカ, イギリスをはじめ世界20か国以上で導入  
赤ちゃんの扱いに慣れている人であれば取得可能  
医師, 看護師, 助産師, 理学療法士, 心理士など幅広い職種が  
NBOの資格を取得  
病院, 家庭訪問など幅広い臨床現場で活用 (Nicolson,  
2015 ; Holland, & Watkins, 2015)

いくつかの国では養育支援訪問のツールとして導入

# NBOの可能性

---

- 親の乳児への感度を高める/ 親と乳児の関係性を強める
- 専門家と家族のよい関係を促進する

比較的簡便なツール

今、看護スタッフが私を紹介してくれる時、

「赤ちゃんを一緒に見てもらえる人」と紹介。

→ 支援のハードルが下がりやすい

赤ちゃんをみながら様々な思いが自然と語られることも

また赤ちゃんが本当にタイミングよく親の語りに反応し

その反応を共有することでより理解が深まっていく

= 親-乳幼児精神療法の空間と場が生まれやすい

## 母親を取り巻く家族と赤ちゃんとの 出会いを支える機会

父親 : 赤ちゃんの出産が  
赤ちゃんとの出会い  
父親役割の戸惑いと実感の乏しさ

祖父母 : 娘、息子から、孫の親としての関わりの変化  
赤ちゃんよりも自分の子どもたちに意識が向きがち

きょうだい : 家族の一員が増え、力動が変化  
きょうだいを受け入れる準備が必要

家族にも“参加”いただくことで  
家族として赤ちゃんと出会えるサポートの場として

## NICUに入院となってくる母親は多かれ少なかれ

自分が親として不適切なのではないか

自分がケアすることで傷つけてしまうのではないか・・・

など不安を抱えています

出産時のリスクが高ければ高いほど、

かよわい・弱弱しい存在というイメージが先行し、

かかわりは消極的になり、自信をもったかかわりにならない

⇔ 生きる力・育つ力・反応する力を持った存在として

出会いなおすこと

赤ちゃんの力を信じること = **尊厳と尊重**

**赤ちゃんと家族の強みを引き出すことで支援をしていくこと**

## どんな赤ちゃんなのか・・・情報の共有

家族と一緒に赤ちゃんを“観察”すること

= 赤ちゃんがどんな時にどんなサインを出すのか

家族と一緒にかかわること

= どんなかかわりが好きで、どんなかかわりが苦手なのか

家族と一緒に考えていくこと

= 赤ちゃんが何を感じ、どうしてほしいと思っているのか

赤ちゃんを知ること

= 家族と赤ちゃんの関係をつなぎ

家族と赤ちゃんの歩みを支えていくプロセスとなる

家族がどう感じ、どうしたいのかを知ること

赤ちゃんがどう感じ、どうしてもらいたいと思っていること

赤ちゃんのところにアンテナを張ること

そこからがスタート

協働

NBOはFCCの4原則に沿った介入の一つ

# 私の展望(希望)

---

ハイリスク児の家族支援の一つとして

NICU入院時の支援の一環

退院前(長期入院の場合は複数回)

家族と赤ちゃんとの距離がある場合

養育支援訪問などのツールの一つとして

・子どもたちの発達を支えるものとして

自己調整の力を支え、赤ちゃんのボディイメージ、

自己感の土台を築いていく介入の一つとして

# 第132回日本小児精神神経学会

The 132nd Meeting of Japanese Society of Pediatric Psychiatry and Neurology

子どもと家族の多様な育ちを多職種で支える



## 大会プログラム

1  
目

11  
月30  
日(土)

● 社会実務  
● 臨床実務

### 特別講演

長期の入院が重症の乳児の自己意識と道徳的発達に与える影響  
乳児の関係性の世界への信頼を築くにはチームが必要である

Campbell Paul (Infant Psychiatrist, Royal Children's Hospital  
and the Royal Women's Hospital / President of WAIMH)

### 特別企画

家族の育ちを支えるために  
—医療的ケア児のいる家族からのメッセージ—

父:村瀬 元弥 母:村瀬 晴美  
きょうだい:村瀬 克之 ご本人:村瀬 正之  
(聞き手)田倉 さやか

NBO国際  
マスター  
トレーナ-  
の講演

2  
目

12  
月1日(日)

### 教育セミナー

療育手帳の交付判定を目的とした知的機能  
/適応行動の評価検査の開発

村山 恭朗  
金沢大学人間社会研究域

### 教育講演1

超早産児神経発達症と神経発達症—違いを知って、  
生涯の支援を

出口 貴美子  
キッズ&ファミリークリニック出口小児科医院/超早産児神経発達症研究会

### シンポジウム

ライフステージを見通して子どもたちに必要な支援を考える

◎子どもの社会的行動のアセスメントと支援—自治体の乳幼児健診をもとに(仮)  
別府 悦子 中部学院大学教育学部

◎発達特性のあるお子さんの運動発達と不器用さに対する支援(仮)  
佐野 美沙子 名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻発達学講座

◎児童期の学習への支援(仮)  
福井 美保 大阪大学教育学部/大阪医科大学小児科

◎青年期の自己理解や適応を考える—大学生を支援する立場から—  
林 陽子 名古屋大学学生支援本部学生相談センター/心の発達支援研究実践センター

指定討論:山崎 知克 科教省子どものこころの診療所

事後参加登録: 2024年12月2日(月) ~ 2025年2月28日(金)

オンデマンド配信

1回目: 2024年12月16日(月)12:00 ~ 2025年1月24日(金)

2回目: 2025年3月3日(月)12:00 ~ 2025年3月31日(月)



# 2025年度 Neonatal Behavioral Assessment Scale トレーニング・コースのご案内

ブラゼルトン新生児行動評価 (NBAS) は生まれたばかりの  
赤ちゃんに対して行う神経行動発達評価です。

赤ちゃんが周りの関わりとどのように受け取り、  
反応するのかを評価し、専門家との情報共有や  
親子支援につなげることも可能です。

ぜひこの機会に、NBASの理論と赤ちゃんの  
神経行動発達の評価方法を学び、  
ご自身の臨床・研究にご活用ください。



講師  
NBASトレーナー

開催日

2025.8.30 (土) 9.1 (日)

場所

日本赤十字社愛知医療センター  
名古屋第二病院(予定)  
名古屋市昭和区妙見町2-9  
(名古屋市営地下鉄 八事日赤 下車すぐ)

対象

赤ちゃんやお母さんにかかわる  
医師・看護師・助産師・保育士  
作業療法士・理学療法士・臨床心理士等

募集人数

20名程度  
先着順とさせていただきますので、  
定員になり次第締め切ります。

受講費

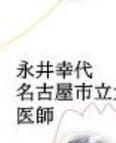
5万円  
(検査キット、テキスト、資料込)  
\* NBO既受講者は割引があります

NBI Japan NBAS研究会事務局 (Mail Address: [<nbaskenkyukai@gmail.com>](mailto:<nbaskenkyukai@gmail.com>))

お申し込みの際は件名に 【NBASトレーニング・コース受講希望】  
と書いてお申込みください。その他、何かあれば、上記連絡先までお問合せください。



大城昌平  
聖隷クリストファー大学  
理学療法士



永井幸代  
名古屋市立大学  
医師



永田雅子  
名古屋大学  
臨床心理士/  
公認心理師